

競争評価2014 定点的評価の方向性 (固定系音声通信及びWANサービス)

平成27年5月25日

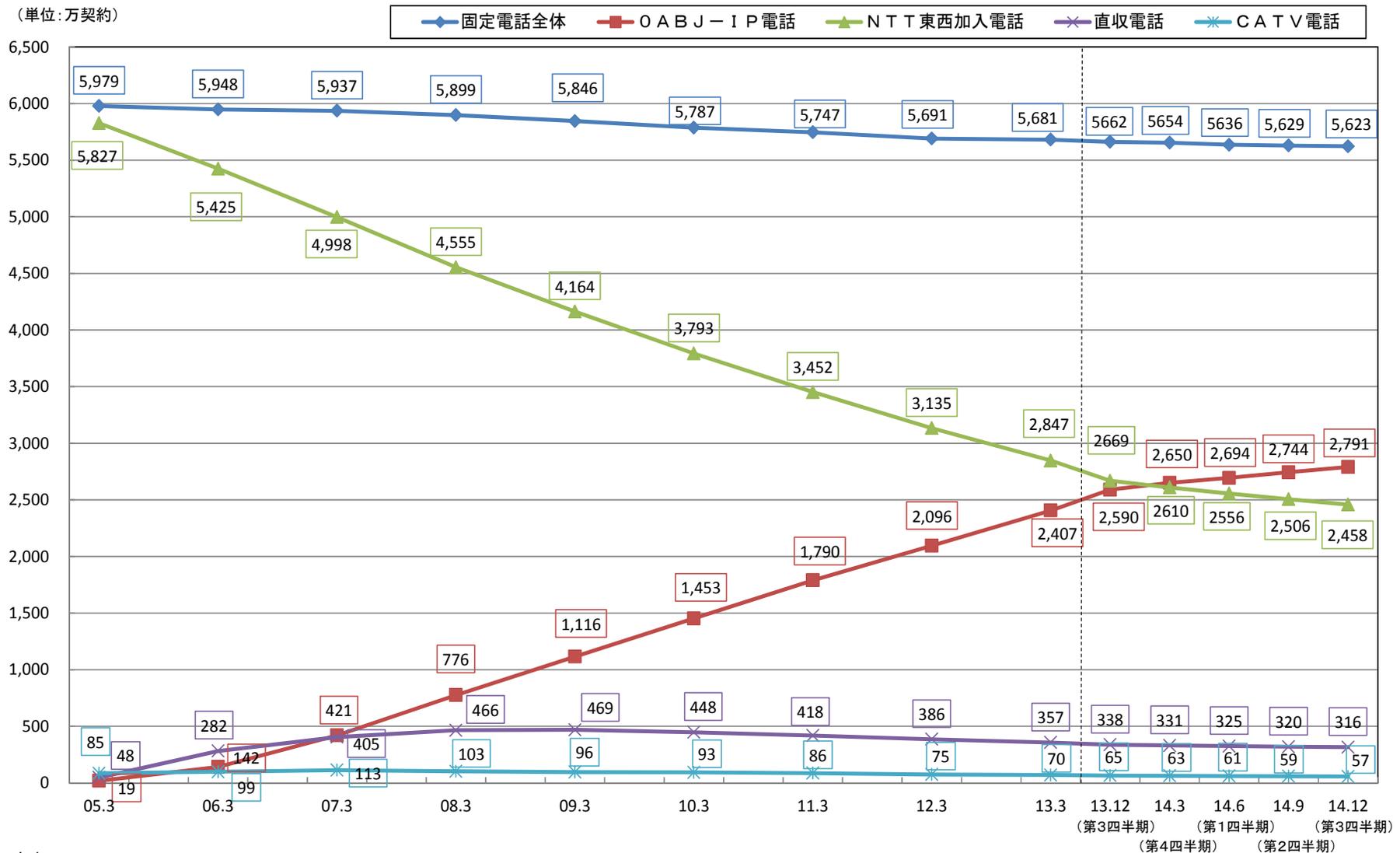
総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 事業政策課

- 1 固定系音声通信 . . . P.2
- 2 WANサービス市場 . . . P.7
- 3 評価の視点 . . . P.12

1 固定系音声通信

固定電話の契約数の推移

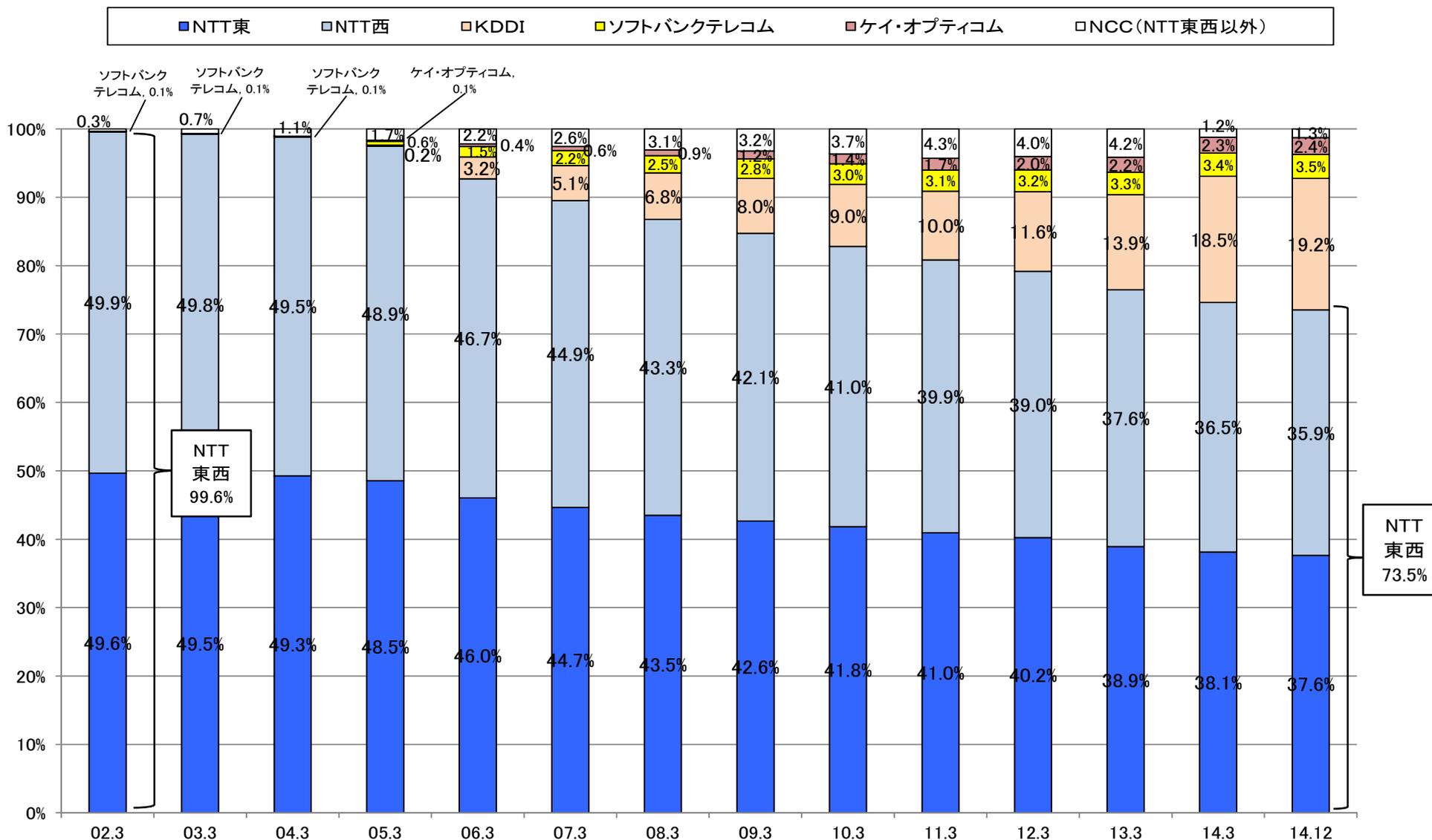
- **固定電話**（NTT東西加入電話、直収電話、CATV電話及びOABJ-IP電話）の**契約数は**、2014年12月末時点で**5,623万**であり、**減少傾向**にある。
- 全体の傾向としては、**OABJ-IP電話の契約数の増加**以上に**NTT東西加入電話、直収電話及びCATV電話の契約数の減少**が大きい状況にある。



注：2014年12月末時点。

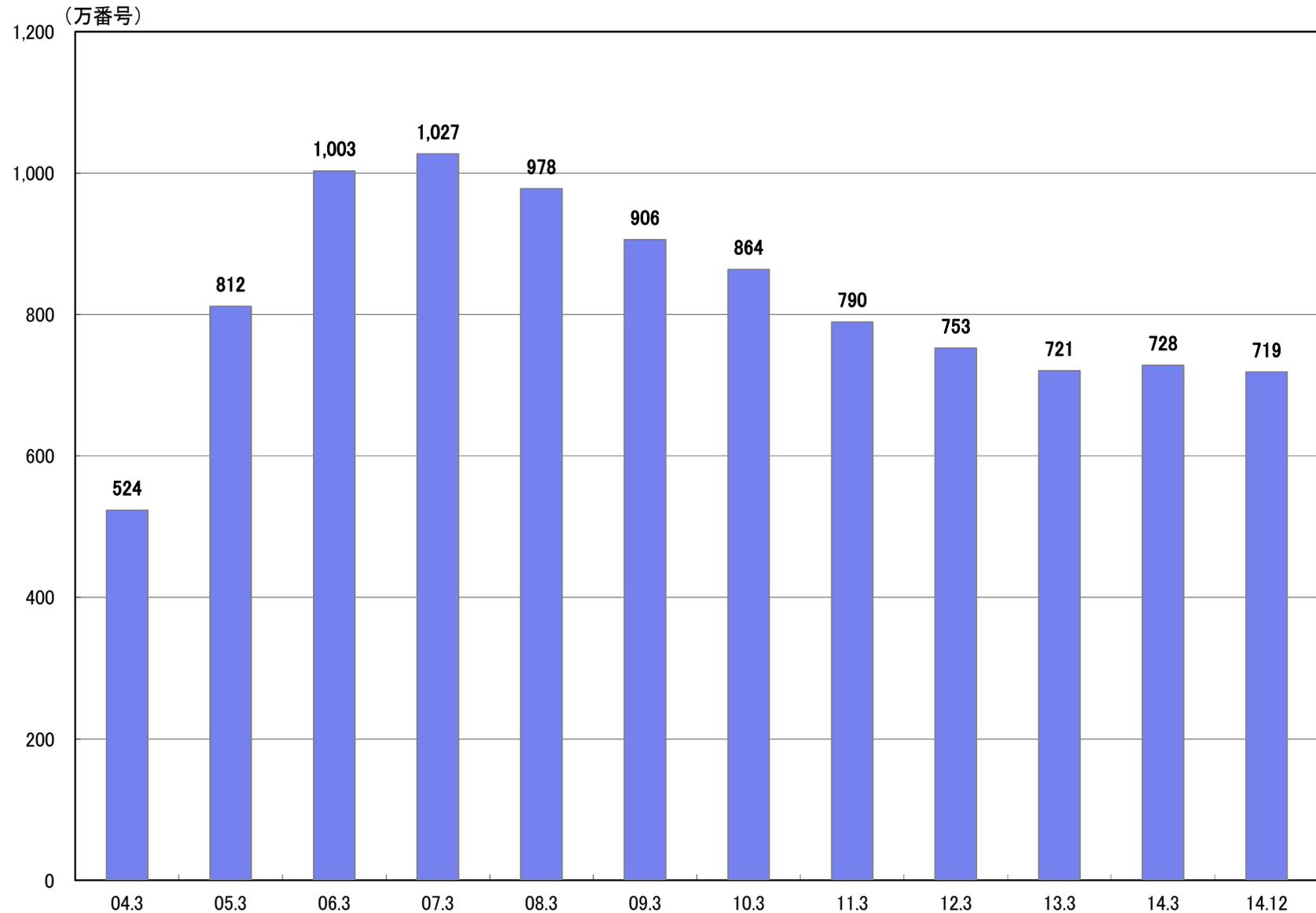
固定電話の契約数における事業者別シェアの推移

● **固定電話** (NTT東西加入電話、直収電話、CATV電話及び0ABJ-IP電話) における契約数の事業者別シェアを見ると、2014年12月末時点で**NTT東西のシェアは73.5%**であり、**減少傾向**にある。

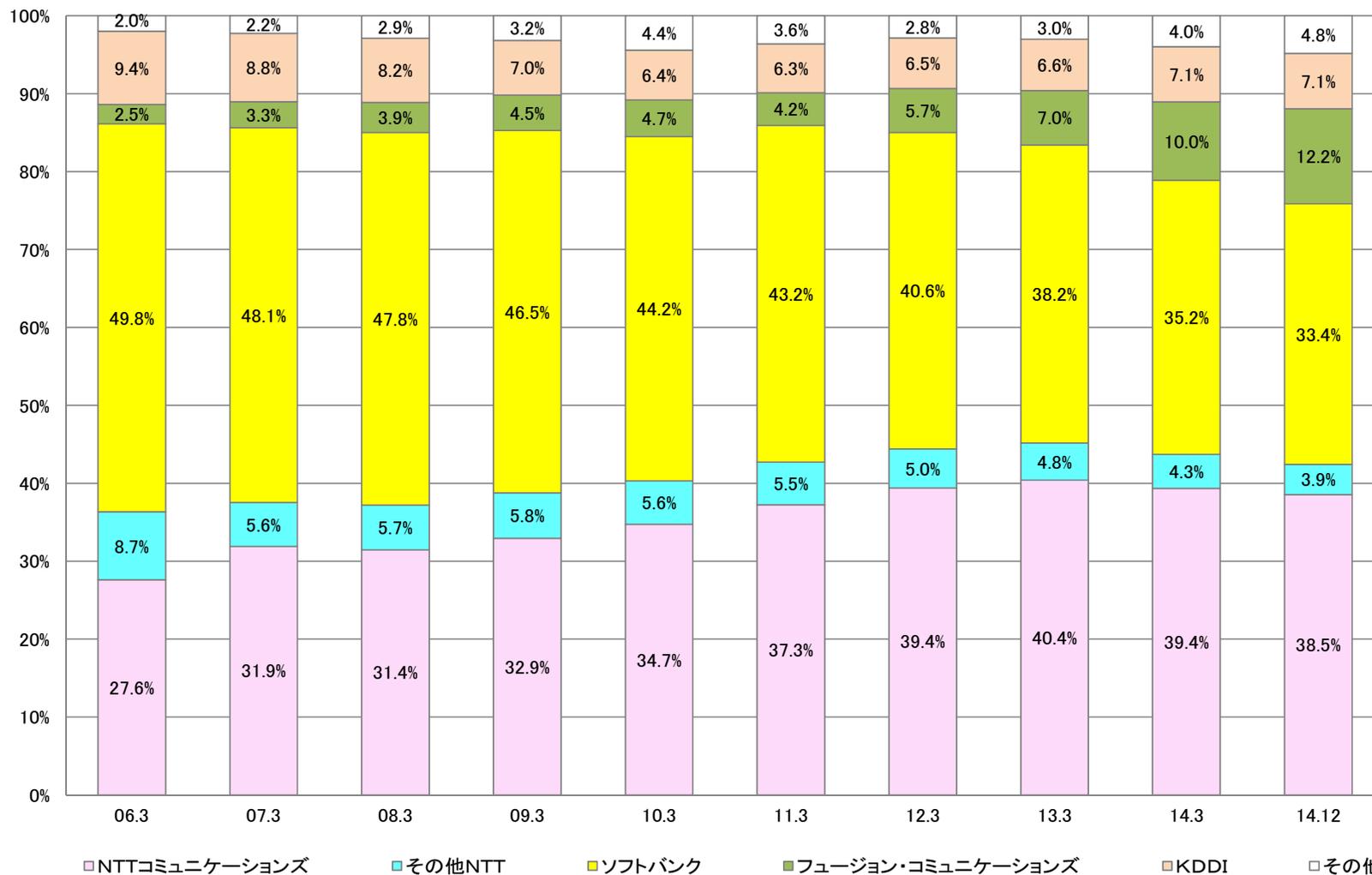


注：2014年12月末時点。

- 050-IP電話の利用番号数については、2012年度以降は720万前後で推移している。



● 050-IP電話の利用番号数における事業者別のシェアは、2012年度末以降、シェア1位はNTTコミュニケーションズとなっている。また、2011年度末までの上位3社は、ソフトバンク、NTTコミュニケーションズ、KDDIであったが、2012年度末以降入れ替わり、NTTコミュニケーションズ、ソフトバンク、フュージョン・コミュニケーションズの順となっている。

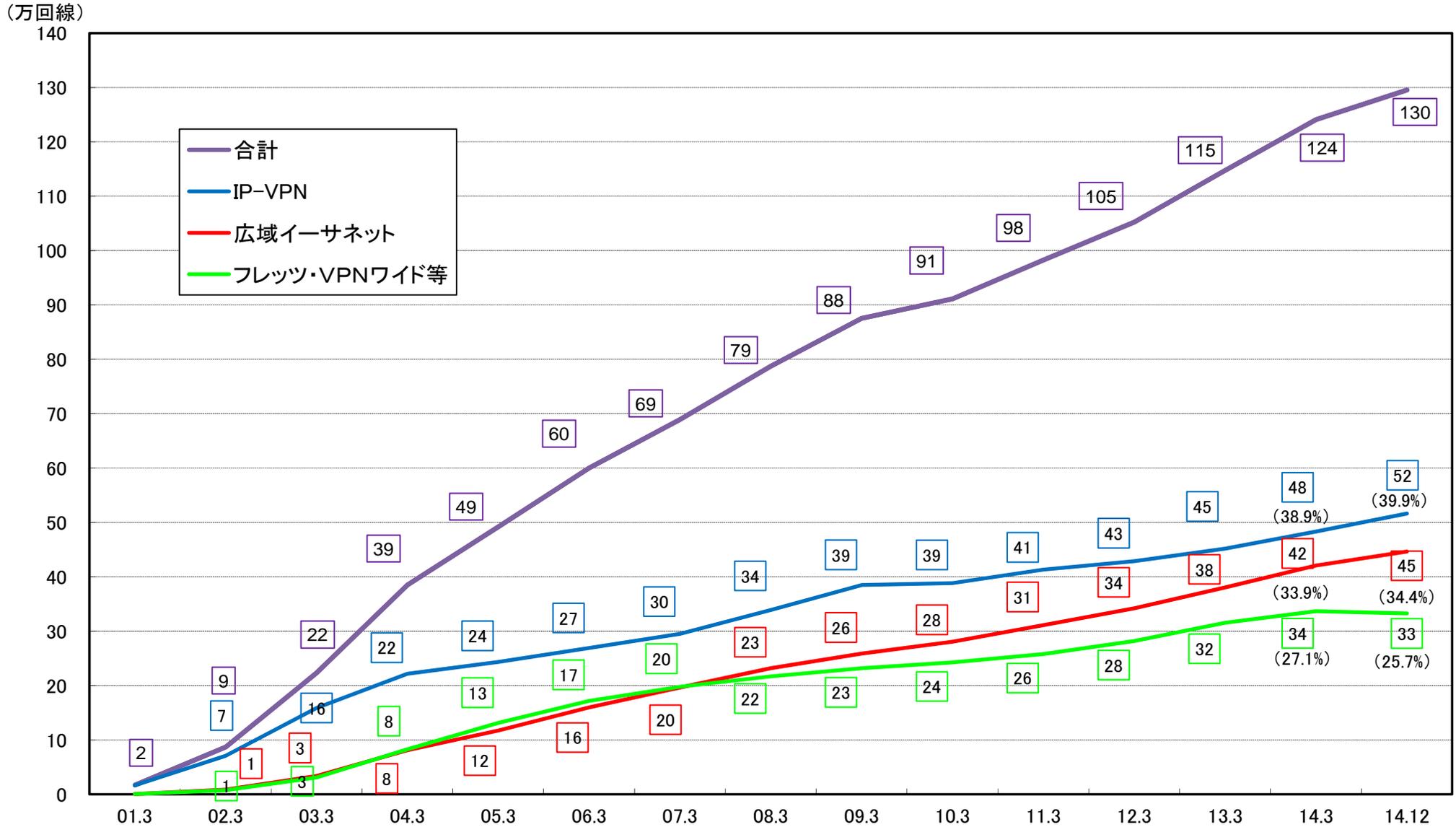


注：2014年12月末時点。

2 WANサービス市場

WANサービスの契約数等の推移

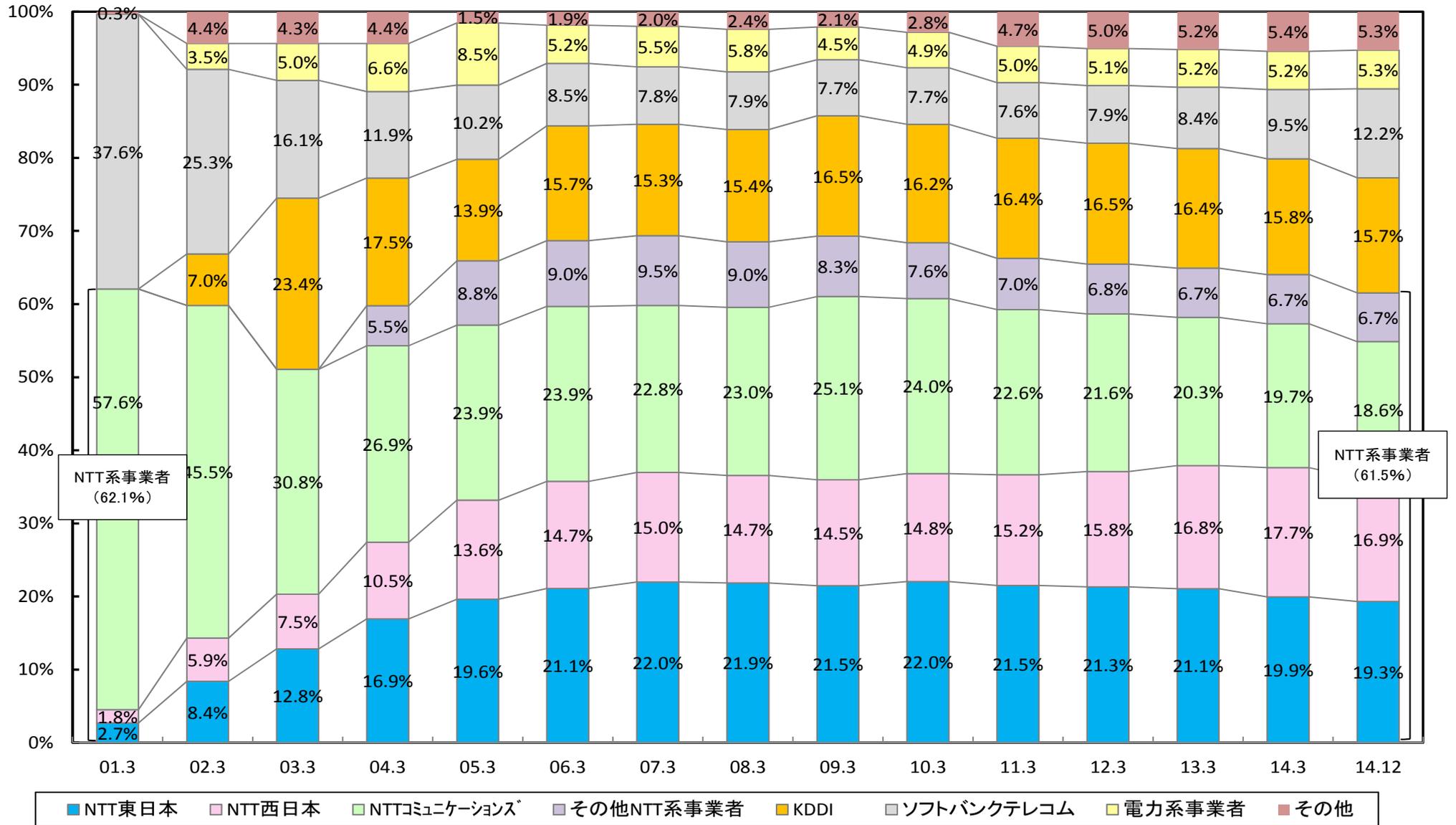
● WANサービスの契約数の推移を見ると、IP-VPN及び広域イーサネットにおいて増加傾向が続いている。一方、フレッツ・VPNワイド等においては昨年度と比べて減少している。



注：2014年12月末時点（「フレッツ・VPNワイド等」は2014年9月末時点）。

WANサービスにおける事業者別シェアの推移

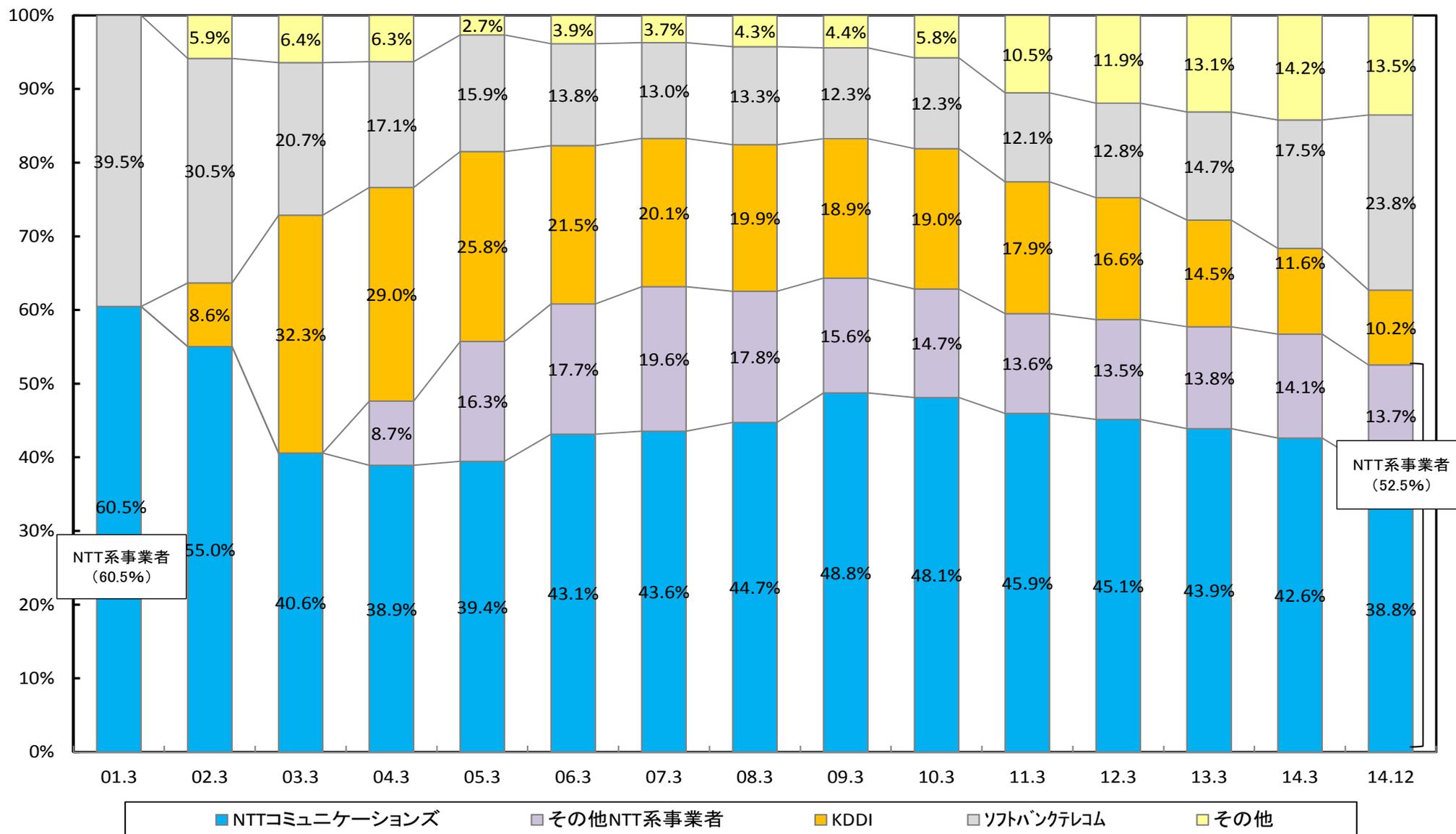
● WANサービスにおけるNTT系事業者の事業者別シェアの合計を見ると、61.5%と近年は減少傾向にある。一方、ソフトバンクテレコムは12.2%と前年度と比べて増加している。



注：2014年12月末時点（「フレッツ・VPNワイド等」は2014年9月末時点）。

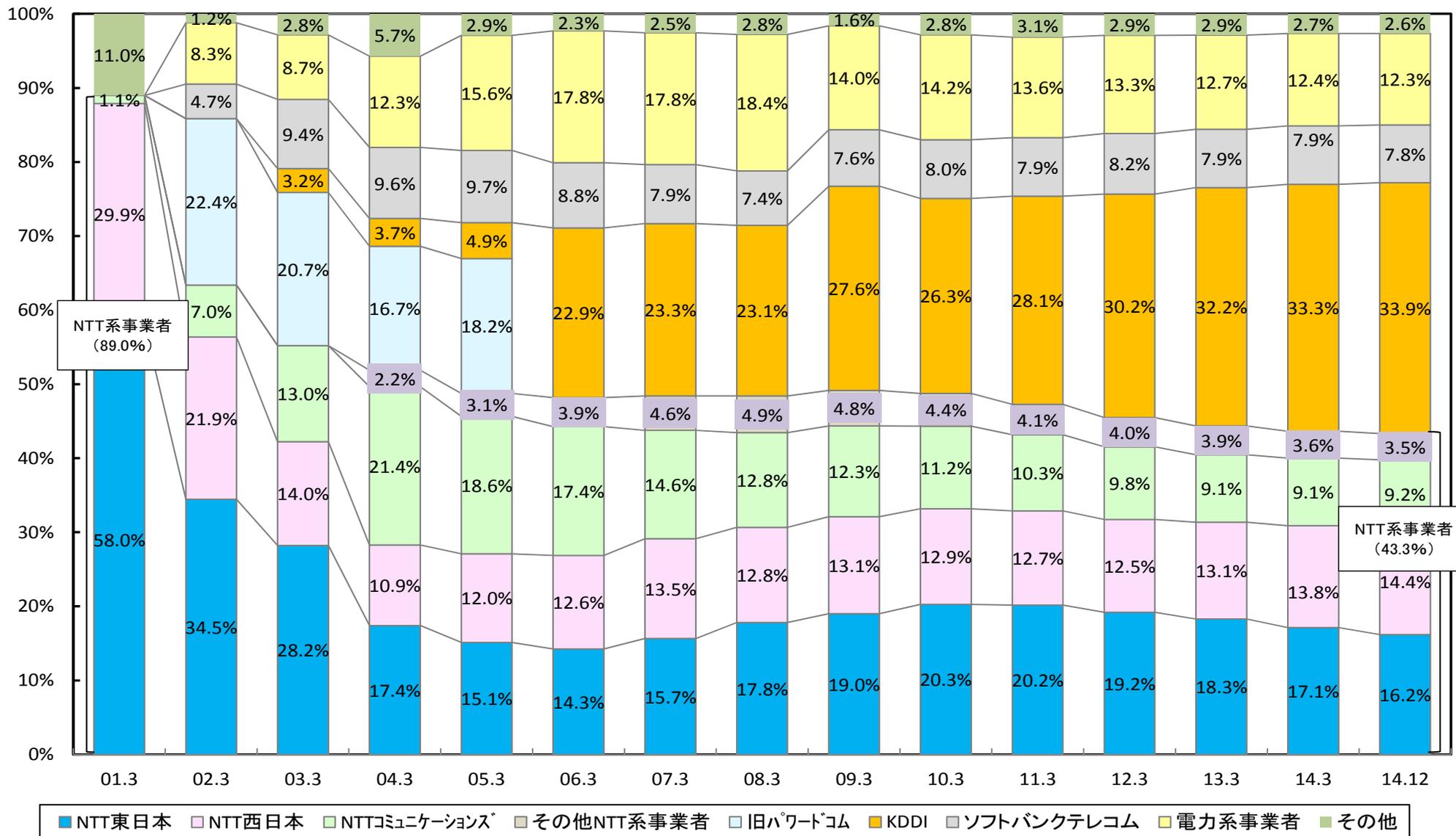
IP-VPNにおける事業者別シェアの推移

- IP-VPNにおけるNTT系事業者の事業者別シェアの合計を見ると、52.5%と近年は減少傾向にある。一方、ソフトバンクテレコムは23.8%と前年度と比べて増加している。



広域イーサネットにおける事業者別シェアの推移

- 広域イーサネットにおけるNTT系事業者の事業者別シェアの合計を見ると、43.3%と近年は減少傾向にある。一方、KDDIは33.9%と前年度と比べて増加している。



3 評価の視点

- **固定電話市場における市場支配力に関しては、NTT東西が依然として単独で市場支配力を行使し得る地位にある**と考えられるが、第一種指定電気通信設備に係る規制措置が講じられている中、
 - ・ **NTT東西のシェアが低下傾向にあること、**
 - ・ **固定電話の利用について、携帯電話等への代替が生じていること、**
 - ・ **固定電話市場にあつて増加傾向の続く0ABJ-IP電話の影響が強まっているが、0ABJ-IP電話は主にFTTHとセットで提供されているところ、FTTH市場においてNTT東西が実際に市場支配力を行使する可能性は低いこと、**等も踏まえれば、**NTT東西が同市場において実際に市場支配力を行使する可能性は低い。**
- なお、事業者別シェアの数値のみを見れば、**NTT東西を含むシェア上位の複数事業者が協調して市場支配力を行使し得る地位にあるが、**第3章において分析したFTTH市場における競争状況を勘案すれば、**実際に協調して市場支配力を行使する可能性は低い。**
- **050-IP電話市場における市場支配力に関しては、事業者別のシェアの数値のみを見れば、複数の事業者が協調して市場支配力を行使し得る地位にある**と考えられるが、近年の0ABJ-IP電話の契約数の増加に伴い、**メタル回線による同サービスの市場としては縮小傾向にあることや、ADSL市場を含む固定系ブロードバンド市場における競争状況などを踏まえれば、実際に市場支配力を行使する可能性は低い。**
- **ソフトフォンについては、その利用者が拡大する一方で、その利用環境や利用実態に変化が生じていること等を踏まえ、今後も引き続きその動向を注視していくことが必要**である。

- **WANサービス市場における市場支配力に関しては、事業者別シェア等を踏まえれば、NTT系事業者が協調して市場支配力を行使し得る地位にあると考えられるが、**
 - ① **WAN市場全体の中での最多のシェアを占めるIP-VPNサービスにおいて、NTT系事業者のシェアの合計がここ数年、減少傾向にあること、**
 - ② **契約数が増加傾向にある広域イーサネットサービスにおいても、NTT系事業者のシェアが減少傾向にある一方、NTT東西とシェアが拮抗しているKDDIのシェアは増加傾向にあること、**
 - ③ **近年、従来の通信回線中心のサービス提供のみならず、各事業者がクラウドコンピューティングサービスや各種アプリケーション等との一体的なサービスを新たに展開し始めており、クラウドコンピューティングサービスの売上高が増加傾向にあること**
- 等を考慮すれば、**実際に市場支配力を行使する可能性は低い。**

- **固定系音声通信**については、**競争評価2013時点(昨年3月末)**から大きな傾向の変化はなく、この点を踏まえて評価を行うことが適当ではないか。
- **WANサービス**については、**競争評価2013時点(昨年3月末)**から大きな傾向の変化はなく、この点を踏まえて評価を行うことが適当ではないか。